

第 38 回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザリーボード 議事要旨

- 1 日 時 : 令和 6 年 2 月 22 日 (木) 14:00~16:00
- 2 場 所 : 総務省 10 階 1006 会議室
千代田区霞が関 2-1-2 中央合同庁舎第 2 号館
- 3 出席者 : (委員)
 - ◎黒沢 文貴 (東京女子大学名誉教授)
 - 田家 修 (恩給審査会委員)
 - 兼川 真紀 (弁護士)
 - 亀井 昭宏 (早稲田大学名誉教授)
 - 斎藤 靖二 (公益財団法人日本博物館協会評議員
一般財団法人全国科学博物館振興財団評議員)
 - 名越 健郎 (拓殖大学特任教授)

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

(総務省)

 - 河合 暁 官房審議官
 - 加藤 剛 大臣官房総務課管理室長

4 議事次第

- ・ 令和 5 年度平和祈念展示資料館運営業務実施 (見込み) 報告について
- ・ 令和 6 年度平和祈念展示資料館運営業務計画 (案) について

5 議事要旨

黒沢座長からの新たな構成員の紹介に続き、黒沢座長から田家委員が座長代理に指名された。

令和 5 年度平和祈念展示資料館運営業務実施報告書 (見込み) を委託業者から報告、質疑応答が行われた。続いて、委託業者から令和 6 年度平和祈念展示資料館運営業務計画について説明、質疑応答が行われ、最後に意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

- どの地域、国の方が来館しているかは、もう少しきめ細かく調べていく必要があるだろう。また、ある種の国際交流、国際化ということであると、それに対応する言語ということで、英語以外の言語も視野に入れていただきたい。

- もう少しダイナミックな見せ方となるように、他の博物館等ですでに用いられている展示の手法や技術を応用することで工夫することを考えていただきたい。
- 一般の人には、3 労苦の中で兵士の説明が恐らく一番分かりにくいので、説明の仕方をもう少し分かりやすく工夫していただきたい。
- 来館者数の目標値については、総務省と受託者でよく話し合い、現実的・妥当的な目標値を立てた上で、いろいろな広報活動をして、来館者数を昔のレベルまで戻していただきたい。
- 展示物がレプリカか本物かが分かりにくく、特に本物がケースにも入れられずに展示されていると劣化や盗難などの不安もあるだろう。
- 説明やキャプションがあっさりした感じがあるので、もう少し展示の説明を充実させていただきたい。
- 「帰還者たちの記憶ミュージアム」を資料館のキャッチフレーズ、存在意義ということで使っていくというのは、すばらしい。
- リアルな入館者だけではなくて、オンライン視聴の統計などを目標にすることは考えられないか。
- 戦争の博物館は、放っておいても来館する人はいるものではないので、今の人の感性に合った仕掛けという観点からチャレンジしていただきたい。
- 全国関連施設ネットワーク会議では、社会の関心が高まっていることを生かせる計画を期待しているので、頑張ってください。
- 語り部お話し会等の事業に2次元コードを使うと、活用の余地がすごくあるので、ご検討いただきたい。
- オンラインの平和学習支援プログラム、企画展や館外活動が、以前に比べて増えているように感じる。内容的にもかなり充実したものを検討して実施しているようだが、平和学習支援プログラムを毎月のようにやる場合は、どのくらいの負担になるのか、心配なところがある。
- サポーターみたいな組織を確保できるような方策があれば、資料館としてもやりやすくなるのではないか。

- 長期間継続して運営しているなら、また5年間の運営が任されている中で、それに甘んじることなく、歴史の次世代への継承を促す新機軸を常に緊張感をもって考えていただきたい。

〔 本議事要旨は、総務省大臣官房総務課管理室において作成した。
速報版であり、今後、修正する場合がある。 〕